夢の風船プロジェクト

梶　山　雅　司

人と人が知り合いになることはいろいろなパターンがありますが，今回養護学級が取り組んだのは，偶然に誰かと知り合うきっかけを作り，お互いを知ったり話をしたりしながら少しずつ相手のことを知り，出会いから知り合いになるまでのシミュレーションを意図的に仕組んでみました。

風船を飛ばそう

9月のある日養護学級合同の国語の時間に「花いっぱいになあれ」という本を読み聞かせをしました。キツネが赤い風船に花の種をつけてとばすというお話です。その風船は遠くまで飛んで行ってそこで花を咲かせるというもので，話を聞いた子どもたちに風船を飛ばしてみようと投げかけました。子どもたちは大変興味をもち，ぜひ自分たちもやってみたいということになりました。

これから風船を飛ばします

西の空へ飛んでいく赤い風船

風船は絵本と同じ赤い色のものを準備し，ひもの先には手紙を付けるようにしました。手紙は6年生が代表して書き，内容は「この風船を拾ってくれた人，お手紙ください」と学校の住所と養護学級の名前を書きました。天気の良い日，合同教室からみんなで外へ飛ばしました。風船は西の空へ飛んで行きました。

風船を飛ばした日から，子どもたちの反応は様々でした。時々思い出したように「あの風船はどこへ飛んで行ったかね？」「外国へ行ったんかね？」などと言ってみたり，実は毎日家に帰ってから自分の家に飛んできていないか確かめていたり。子どもたちなりに気にしていたようです。

返事が来た！

数週間たって，一通の手紙が届きました。広島市立袋町小学校の児童からです。なんと風船が自分たちの校舎の屋上にある畑に飛んできていたという内容が書かれていました。さらに，お友達になりましょうと書かれていました。

さっそくみんなで地図をみて袋町小学校の位置を確認しました。東雲小学校からどのくらい離れているのか，袋町小学校はどんなところにあるのかをインターネットの地図のアプリで見てみました。「町の中にある学校だね。」「屋上に畑があるんだって」「近くに行ったことがあるよ！」と風船がゆらゆらと飛んで行った様子を地図を見ながらみんなで想像しました。

出会い　知り合い

その後，お礼の手紙と電話番号を６年生が代表して書きました。その手紙が届くと話が進み，テレビ電話で顔を見ながら袋町小学校の友達と話をすることができ，お互いに顔やどんな友だちかを知ることができました。そして，とうとう袋町小学校の友だちが12月のある日，東雲小学校へ遊びに来てくれました。自己紹介をしたりゲームをしたり，また学校案内をしたりと楽しい時間を過ごすことができました。少しの時間でしたが，名前で呼んでいたり，自然に会話をしたりしている姿に今回の取り組みの成功を感じました。

一緒にハンカチ落とし

はりきって学校案内

偶然知り合った人と友だちになる経験は，これからもあると思います。しかし，今回のような出会いはあまり経験できないかも知れません。今の時代は全くの偶然に全てをゆだねるわけにはいかないかも知れませんが，子どもたちの夢を損なわないような取り組みをこれからも仕組んでいきたいと思っています。

最後はアーチでお見送り

作った後の展開を楽しみに

―手作りおもちゃでハッピーランド―

城　　一　　樹

1　はじめに

特別支援学級中学年は，生活単元学習の中でおもちゃ作りに取り組みました。中学年という段階から，作って終わりではなく，作ったおもちゃで友だちと一緒に遊んだり，工夫したところや，気に入っているところを友だちに伝えたりする楽しさを味わってほしいと考えました。

紙コップロケット作り

2　おもちゃ作りからハッピーランドへ

まず，いろいろなおもちゃ作りに取り組みました。おもちゃ選びはインターネットで検索すると，たくさんの選択肢がありました。

ご興味のあられる方は是非「手作りおもちゃ」で探してみてください。

今回は，作ったおもちゃで「ハッピーランド」という，おもちゃの発表会をしてみました。

養中の６人の子どもたちで３年生と４年生１人ずつでペアになり，３グループそれぞれが，これまでに作ったおもちゃの中でどれを発表したいか相談して決めていきました。発表するおもちゃは，でんでん太鼓，色紙ヨーヨー，紙コップロケットの３種類となりました。

紹介するおもちゃ選び

ぞれぞれのグループで，おもちゃの作り方や工夫したところ，気に入っているところを紹介するポスターを作ったり，屋台を作ったりという活動にペアで協力しながら取り組むことができました。これらの活動も，ペアでやるからこそ楽しく取り組むことができたと思います。１人で作ると，全て自分のアイディアやペースで作っていくことはできますが，ペアだと意見がかみ合わないこともあります。そういうとき，すぐに教師が子どもの中に入って話し合いをまとめる方向へ導くのではなく，子ども同士のかかわりのチャンスととらえ，しばらくようすを見守りました。４年生が３年生の希望を丁寧に聞いたり，譲ったりしながら折り合いをつけ，活動を進めていく姿を見ることができました。４年生のこのようながんばっている姿や活動を３年生は実感し，きっと来年度は養中の中でのリーダーとして，今度は下学年の意見を受け容れたり，譲ったりする存在となっていくのだと思います。そうしながら成長した自分を実感したり，自分に対

する自身をより大きくしていくことができるのだと思います。

屋台も完成し，いよいよハッピーランドの本番です。

第１回目は，研究会で，お客さんは会員の方々という設定でした。６人の子どもたちは，初対面の会員の方々におもちゃの作り方や遊び方を紹介したり，一緒におもちゃで遊んだりして，自分たちで屋台を運営していくことができました。

おもちゃの紹介ポスター作り

第２回目は，２年２組をお客さんに招いて行いました。２回目とはいえ，１回目とは全く違う下学年のお客さんを前に，養中の子どもたちは，活動全体の司会進行も務めるなど，ドキドキしながらも上学年としてはりきって活動することができました。

第２回目を終えた後，養中の子どもたちから，「次はいつハッピーランドやるの？」という質問がありました。「今度は車のおもちゃが作りたい。」という子どもの声もありました。

今後も，おもちゃ作りに取り組み，機会を見つけて，バージョンアップしたハッピーランドを展開していく予定です。

３　おわりに

お金を出せば，自分で作らなくてもおもちゃを手に入れることができる今の時代です。しかし，輪ゴムをどこへ，どうやって通すかなどを考えたり，飾り付けやデザインを工夫したりして作り上げていく喜びは，子どもたち１人１人に是非とも味わっておいてほしいと思います。

屋台の看板作り

子どもたちは，自分が作ったおもちゃで友だちが楽しく遊んでくれることを嬉しく思い，意欲的におもちゃ作りに取り組むことができました。完成したおもちゃを教室に置いているのを見た単式・複式学級の子どもたちに，養中の子どもたちが遊び方のコツを伝えながら，一緒に楽しく遊ぶ姿も見られました。

養中の子どもたちが作ったおもちゃで一緒に遊んだ単式学級の子どもの中には，自分でも同様のおもちゃを作って養中教室に見せに来てくれた子どももいて，そこでも子ども同士のかかわりが深まっていきました。

２年２組とのハッピーランド

おもちゃという「ものづくり」を通して，養中の子どもたちは友だちとのかかわりをもったり，深めたりするうれしさを実感していくことができました。

この経験が今後，高学年や中学校での「他者が喜ぶことを期待しての活動」へとつながっていくと考えています。

1　はじめに

人間の体は，成長の時期に個人差はありますが，年齢とともに成長をしていきます。その成長の中で，筋力，バランス感覚，身体感覚などが育っていきます。また，乳児期の指先の動きに始まり，成長とともに少しずつ全身を使った運動ができるようになっていきます。それぞれの機能は，ある程度バランスよく育っていきますが，特定の分野だけ突出して育ったり，特定の分野だけ力が発揮できなかったりすることも珍しくありません。人間の体には，おおよそ，決まった育ちの順序はありますが，細かく見ていくと「人の数だけ，成長の仕方はある」ということになります。

2　運動機能と日常生活

小学校生活の中で，子どもの様子を見ていると，しばしば「姿勢が悪い」「椅子からずり落ちる」「体操座りができない（一定時間もたない）」ということがあります。また,「小さな段差でつまずく」「しばしば人や壁とぶつかる」ということもよく耳にします。実は，これらのことは人間の体の機能と関係しているのです。多くの場合，時間が解決してくれます。乱暴に言うと「そのうち何とかなる」ということです。

しかし，スムーズに暮らせるようになるのは「できるだけ早い方がよい」という思いをもつ子どもはいるのではないでしょうか。なぜなら,「できていない」「うまくいかない」「痛い」という思いをすることが増えると生活が楽しくないからです。年齢が上がってくると，周囲との比較をするようにもなります（これはこれで，大切な社会性の発達ではありますが)。そこで, 身近なものを使ってできる体つくりの遊びをいくつか紹介したいと思います。

るまでは，お互いの手と手を合わせてから始めると，押す感覚がつかみやすいかもしれません。「おしくらまんじゅう」のように，背中と背中やお尻とお尻を付けてから始めるのも楽しいと思います。グッと力を入れる感覚や足の裏で踏ん張る感覚が大切な遊びです。

4　バランス感覚を育てる運動

両足や体の左右を意識して，バランスを取る運動を紹介します。

①新聞迷路

新聞紙を棒状に，２本丸めます。１本を床に置き，その上を歩きます。床に足をついたら失格！です。無事，１本わたりきったら２本目を１本目の先に置きます。２本目に移ったところで１本目を回収します。この動きを繰り返し，部屋の扉から扉，廊下の端から端等の目的地まで先にたどり着いた方が勝ちです。新聞紙でつくる棒の径を太くすればするほど難しくなりますので，ハンディを付けて遊ぶことができます。

②新聞じゃんけん

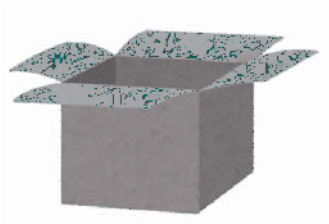
新聞紙を一番大きく広げます。新聞紙の上に立ち，相手とじゃんけんをします。負けると新聞紙を半分に折ります。そしてまた，じゃんけんをします。新聞紙から足が出ると負け，という遊びです。

5　身体感覚を育てる運動

自身の体の状況や大きさを意識することのできる運動を紹介します。

①箱遊び

いくつか，箱や紙袋，段ボール箱を用意します。そして，適度な大きさのものを選び，その中に隠れます。あるいは，箱の中に座ります。制限時間内に，見事隠れる（入る）ことができればゲームクリア。



②新聞紙フープ

新聞紙を丸めて棒状にし，それらをつなぎ合わせて円状にします。その円をくぐることができれば合格です。家族・兄弟で手をつなぎ，手を離さずに新聞紙フープを通すようにすると，大人数でも盛りあがることができます。

6　おわりに

「からだつくり」というタイトルでしたが，できるだけトレーニング的な要素を排除し，ゲーム形式で楽しめるものを中心に取り上げてきました。やらされる活動は長続きしませんが，本人がやりたいと思える活動は長続きします。そして，本人による工夫や発展が生まれます。また，今回は代表的で標準的な遊び方を紹介しました。それぞれ，子どもの楽しめそうな状態にルールや道具をアレンジすることも大切なポイントです。

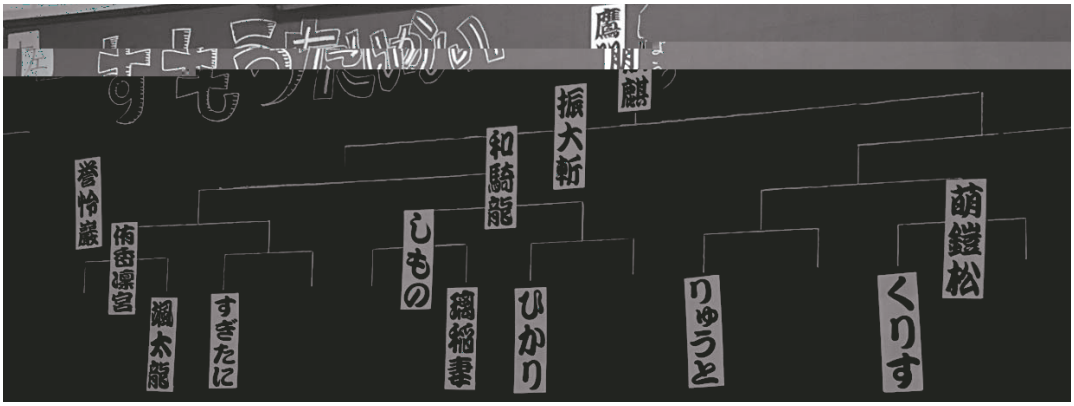
また，公園等の遊具もさまざまな発達を促す器具の一つです。さまざまな活動を通し，「からだつくり」を進めていけるとよいですね。

しののめすもう大会

髙　阪　英　徳

1　はじめに

年が明けるとしののめすもう協会では，新しい「しこ名」の議論が始まります。



2016年度　すもう大会トーナメント

特別支援学級では，１月にすもう大会を行います。３年生になると改名し，「しこ名」をもらってすもう大会に臨んでいきます。この力士のような言い回しをすることで，子どもたちは期待感をもち，「しこ名」に対する愛着とさらにやる気を出して取組を行っています。不思議と自分の「しこ名」をいつまでも覚えている子どももいます。

2　すもうの取組

すもうの勝敗はとてもシンプルで，土俵の外に出すか，相手が膝をついたり，倒れたりすることで決まります。とてもわかりやすいようですが，土俵の上ではさまざまな駆け引きがあり，勝敗が一瞬で決まります。そのことがわかるのに時間がかかることがあり，子どもによっては３，４年生ごろから，しっかり相撲ができるようになることもあります。

土俵

3　縦のつながりで学ぶ

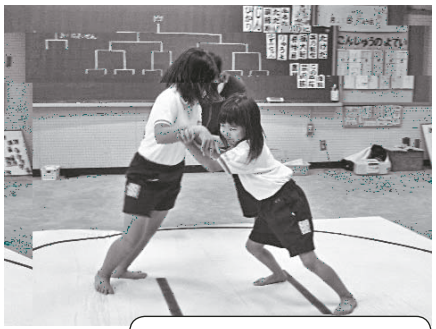
相撲は体格が良い方が有利です。しののめすもう大会では，養護学級の１から６年生が一緒に取組を行うので，高学年の方が勝つことが多くなります。練習では縦のつながりから，たくさん学ぶことができるようにしています。

真剣勝負

相手に立ち向かう

練習のとき低学年においては，「相手を押す」「線の外に出ない」ということを学びます。また，相手がいかに強くてもそれに向かっていく精神力（根性，意気込みなど）も大切にしています。毎年，取り組んでいくことで，徐々にすもうがわかり，力強い取組ができるようになっていきます。

では，それがわかっている高学年ではどうでしょう。大事な要素として「手加減する」ということを挙げます。自分よりも小さい相手となると，勝つことは想定の中にあるので，気持ちの上での余裕があります。自分が全力でやるとどうなるかということを考えつつ，他者に対する思いやりの心も育てていきたいと考えています。



一度，受けとめる

4　おわりに

高学年が有利とも思えるすもう大会ですが，やはり本番は何があるかわからないのが勝負の世界です。大番狂わせも何度も見てきました。負けて涙を流すことが悪いことではありません。むしろ，その悔しさを糧にチャレンジしていってほしいと思っています。

さて今年，しののめすもう大会の結果はいかに。